

西村山地区の高校教育の在り方について
報 告 書

平成22年3月

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会

はじめに

山形県教育委員会により、平成 17 年 3 月に「県立高校教育改革実施計画」が策定されました。その中で、西村山地区の高校の再編整備については、少子化による中学校卒業予定者の減少や、学校の小規模化への懸念等から、高校の再編整備が検討課題として示されました。

「西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」は、平成 20 年 11 月 28 日、県教育委員会教育長から依頼を受け、地域の中学生、高校生及び小・中学生の保護者、地域関係者から意見聴取やアンケートを行い、新しい時代を切り開く西村山地区の高校教育の在り方についてさまざまな視点から検討を重ねてきました。

本検討委員会では、「高校教育に関する意識調査」や「地域関係者からの意見聴取」の結果などを踏まえながら、それまでの検討内容をまとめ、平成 21 年 10 月に「中間まとめ」として公表しました。その後「『中間まとめ』に係る地域説明会」を開催し、いただいた意見も参考にしながら議論を深め、西村山地区の高校教育の在り方について「報告書」として取りまとめました。

今後、県教育委員会におかれまして、本報告書の趣旨を踏まえ、次代を担う子どもたちに対し望ましい教育環境を提供するために、条件整備などの具体的な施策を推進されるようお願いいたします。

あわせて、地域や県民の皆様には一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成 22 年 3 月 4 日

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会
委員長 鈴木 漠

目 次

- 西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会における検討の経過
 - 1 検討委員会の設置と検討事項…………… 1
 - 2 検討委員会における検討経過…………… 1

- 西村山地区の高校教育の在り方について
 - 1 どのような人材の育成が望ましいか …… 4
 - 2 どのような教育内容や活動が望ましいか …… 6
 - 3 どのような再編整備が望ましいか …… 8

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 における検討の経過

1 検討委員会の設置と検討事項

西村山地区の高校再編整備については、平成 20 年 10 月に西村山地区 1 市 4 町で、県教育委員会による「地域説明会」が開催され、「県立高校教育改革実施計画」の概要や、西村山地区の再編整備に関する検討の進め方等について地域の方々から意見や要望をいただいた。

その後、西村山地区の高校教育の在り方について検討するため、西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会（以下、「検討委員会」という）が、平成 20 年 11 月 28 日に設置され、山形県教育委員会教育長から 13 人の委員委嘱と、次の 3 点について検討依頼がなされた。

- (1) どのような人材の育成が望ましいか
- (2) どのような教育内容や活動が望ましいか
- (3) どのような再編整備が望ましいか

2 検討委員会における検討経過

検討委員会はこれまで 5 回開催し、以下の通り協議した。

また、委員会の開催にあわせ、西村山地区 4 高校の視察を実施した。

■ 第 1 回 検討委員会（平成 20 年 11 月 28 日）

○ 検討スケジュールについて

※ 県立寒河江高等学校（本校・農業校舎）視察

■ 第 2 回 検討委員会（平成 21 年 1 月 16 日）

○ 「どのような人材の育成が望ましいか」

※ 県立寒河江工業高等学校、及び県立左沢高等学校視察

■ 高校教育に関するアンケート（平成 21 年 2 月 9 日～ 2 月 20 日）

- | | |
|----------|---|
| (1) 対 象 | 西村山地区 1 市 4 町の
中学 2 年生、高校 1 年生、中学生の保護者、小学生の保護者 |
| (2) 調査内容 | 西村山地区の高校教育の在り方について
質問数 計 8 問（選択式 7 問、記述式 1 問） |
| (3) 集計結果 | ※ 資料参照 |

■ 第 3 回 検討委員会（平成 21 年 5 月 14 日）

- 「どのような教育内容や活動が望ましいか」
- 「どのような再編整備が望ましいか」
- 中間まとめについて

※ 県立谷地高等学校視察

■ 地域関係者からの意見聴取（平成 21 年 6 月 1 日～ 6 月 9 日）

- | | |
|-----------|---|
| (1) 対 象 | 地域で活躍するさまざまな分野の代表 14 名 |
| (2) 聴取方法 | 直接訪問し意見を聴取 |
| (3) 聴取事項 | ① どのような人材の育成が望ましいか
② どのような教育内容や活動が望ましいか
③ どのような再編整備が望ましいか |
| (4) 意見の概要 | ※ 資料参照 |

□ 企画委員会での「中間まとめ（案）」の作成（第 1 回 8 月 5 日、第 2 回 8 月 24 日）

■ 第 4 回 検討委員会（平成 21 年 9 月 1 日）

- 「中間まとめ（案）」について
- 『中間まとめ』に関する地域説明会の開催について

■ 「中間まとめ」に係る地域説明会（平成21年10月19日～10月29日）

- | | | | |
|-----------|-----------------|-------------|-----|
| (1) 対 象 | 西村山地区1市4町の地域の方々 | | |
| (2) 開 催 日 | 寒河江市会場 | 平成21年10月19日 | (月) |
| | 河北町会場 | 平成21年10月21日 | (水) |
| | 西川町会場 | 平成21年10月23日 | (金) |
| | 大江町会場 | 平成21年10月25日 | (日) |
| | 朝日町会場 | 平成21年10月29日 | (木) |
| (3) 意見の概要 | ※ 資料参照 | | |

- 検討委員懇談会での「報告書（案）」に係る意見交換（平成22年1月15日）

■ 第5回 検討委員会（平成22年2月8日）

- 「報告書（案）」について

■ 「報告書」策定（平成22年3月4日）

西村山地区の高校教育の在り方について

(西村山地区の高等学校整備の沿革)

西村山地区の高等学校の設立は、昭和23年に新制高等学校として、寒河江高校、谷地高校（溝延分校、西里分校）、高松高校（西川分校、左沢分校、宮宿分校）の3校の設置から始まる。当初、分校の多くは定時制であったが、時代の要請にこたえ全日制への改編が進められた。

昭和27年に高松高校は寒河江高校に統合となり、高松高校左沢分校、同校宮宿分校を母体として左沢高校と同宮宿分校が誕生している。

昭和30年代の高度成長期を背景に、全日制の職業課程の充実が図られ、昭和38年に、寒河江工業高校が設置された。

以来、寒河江、寒河江工業、谷地、左沢の各校は、地区の内外に有為な人材を輩出し、今日に至っている。

(西村山地区の高校教育を取り巻く状況)

社会の情報化や経済のグローバル化、科学技術の高度化、少子高齢化等が進展する現代においては、社会の変化や地域の要請に的確に対応し、将来を見据えた教育が求められている。

また、個人のニーズに応じて、生涯にわたり学習を継続することができる環境の整備や、変化する社会を生き抜いていくための総合的な力を身に付けることを支援する教育も必要となっている。

西村山地区の高校教育のあるべき姿を考えると、地域を担い、次代を担う子どもたちに必要な力を思い描きながら、高校教育を通して育てたい人物像を明らかにし、望ましい教育と学校像を考えていく必要がある。

1 どのような人材の育成が望ましいか

(1) 西村山地区の県立高校の人材育成に係る現在の目標

西村山地区の県立高校4校は、それぞれに歴史と伝統があり、次のような目標を掲げ、特色ある人材育成に取り組んでいる。

【寒河江高校】（普通科、農業科）

自ら学ぶ英知ある人間、健康で豊かな心をもちたくましく生きる人間、広い視野をもち社会に貢献する人間の育成

【寒河江工業高校】（工業科）

人間性豊かで創造力に富み、社会的使命の自覚をもつ健康で実践力のある工業人の育成

【谷地高校】（普通科）

豊かな人間性と個性の伸長、自主自立の精神と協調的態度の育成、広い視野を育み文化と伝統を重んじる心を育てる

【左沢高校】（普通科）

豊かな情操を育み心身ともに健康でたくましい人間の育成、知性をみがき広い視野をもった自立する人間の育成、郷土に誇りと愛着を持ち、地域の発展を担う人間の育成

（平成21年度各高校学校要覧より）

(2) 望ましい人材育成の目標と人物像

検討委員会では、西村山地区の高校における人材育成の目標を、育てたい人物像を想定しながら次の3点にまとめた。

① 一人ひとりの「いのち」を輝かせることができる人材の育成

ア 自らの心と体を大切にし、同時に他の人の「いのち」と「生き方」をも尊重できる人

イ 他者への思いやりや感動する心などを持ち合わせた人

ウ 自分の行動に対して責任を持ち、最後までねばり強くやり遂げることができる人

② 基礎学力や専門知識とともに、コミュニケーション能力や協調性、積極性を有する人材の育成

ア 身に付けた知識や技能を活用して、試行錯誤しながら取り組むことができる人

イ 自ら課題を見つけ、解決の方法や手段を考えることができる人

ウ 多様な人々と目標に向けて協力しあい、新しい価値を創出できる人

③ 「新たなふるさとづくり」を牽引する広い視野を持つ人材の育成

ア 地域への愛着を持ち、地域社会の活性化のために行動できる人

イ 知識や技術を活かし、新しい分野を切り開いていける人

ウ 地域の内外で、自らの能力を発揮し、指導的役割を果たすことができる人

2 どのような教育内容や活動が望ましいか

(本県の高校教育を取り巻く状況)

県内の中学校卒業生の約99%が高校へ進学している。このため、高校卒業後さらに大学等で教育を受ける基礎として必要な教育を求める生徒、就職等に必要な専門教育を希望する生徒、学習内容の確実な定着を図りたい生徒等、高校へ入学する生徒の目的や高校卒業後の進路希望は多様化している。

また、産業や経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、高校卒業後の進路選択をめぐる環境は、就職・進学を問わず大きく変化している。

一方で、若者の精神的自立や社会的自立の遅れが指摘されており、職業の選択や決定を先送りする傾向も見られる。

このことから、望ましい人材育成のあり方を踏まえ、望ましい教育内容や活動を以下の3点にまとめた。

(1) 知識・技能の習得と知恵（活用力）を育む教育

(基礎・基本の定着と知識の理解を知恵（活用力）につなぐ教育)

生涯にわたる学習の基盤となる基本的な知識・技能を習得させ、体験的な学習や課題解決型の学習を通して、その知識・技能を活用できる力を育み、自ら学び自ら考える力を総合的に育成する教育が望まれる。

(生徒の可能性を伸ばす教育)

基礎・基本の上に、生徒の個々の適性、進路希望、興味関心などに応じて、生徒一人ひとりが持つ可能性をできる限り伸ばすことが求められる。

そのために、多様なカリキュラムを整備し、生徒の学習意欲を高めながら、資質や能力を伸ばすことができる教育が望まれる。

(2) 社会で自立して生きていく力を育む教育

(勤労観・職業観を育成する教育)

勤労観や職業観を育てるためのキャリア教育等を通じ、生徒が自らの将来に夢や希望を持って、高校で学ぶ意義や喜びを見だし、高校卒業後も就職先や進学先において、学習活動を充実・改善し続けることができる教育が望まれる。

(自己肯定感を育成する教育)

地域の大人や異年齢の子ども達との交流、自然の中での活動や職場体験活動、ボランティア活動等を通して、他者、社会、自然とのかかわりの中で、これらと共に生きているという実感や社会の一員として生きる自信を持たせる教育が望まれる。

(健やかな心身を育成する教育)

ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動を通して、心身の調和のとれた発達や個性の伸長を図る教育が望まれる。また、生涯にわたって積極的にスポーツや文化活動に親しむ習慣や意欲を育て、精神的成長を図る教育が望まれる。

(3) 自己実現を図り、地域の発展への貢献力を育む教育

(地域産業の担い手を育成する教育)

専門教育を通して、西村山地区の特色である農業や、高い技術を有したものづくり産業の担い手を育成する教育が望まれる。

大学や行政機関、企業、NPO等との連携により、充実した体験活動や実践的な教育が考えられ、地域の人材育成の期待や要望を教育内容や活動に活かすことが望まれる。

また、地域産業の活性化を図ることができる創造力やチャレンジ精神を有したリーダーを育成する教育が望まれる。

(生徒の多様な興味・関心、進路希望に対応する教育)

幅広い選択科目を開設し、生徒の主体的な選択や実践的・体験的な学習により、多様な能力・適性等に対応した柔軟な教育が望まれる。

地域と連携した学習や活動を通して、自己の進路への自覚を深めさせ、積極的に地域社会に貢献しようとする態度を育成する教育が望まれる。

(国際的視野で地域の発展を牽引する人材の育成)

地域の発展には、国際的な視野に立って将来を見通しながら、地域資源の有効活用を図ることができる人材の育成が不可欠であり、そうしたグローバル化の中で地域を牽引できる資質や能力を育成する教育が望まれる。

3 どのような再編整備が望ましいか

(1) 高校卒業後の進路の特徴

現在、県内高校の卒業生の進学率は、約70.5%であり、その内訳は、大学・短大等が約46.7%、専修学校等が約23.8%である。また、約26.9%が就職している。進学者のうち、大学・短大等への進学割合は年々上昇している。

西村山地区（1市4町）に在住する高校生の卒業生の進学率は、約73.9%であり、その内訳は、大学・短大等が約49.3%、専修学校等が約24.6%である。また、約23.9%が就職している。県全体と比べて大学・短大等への進学の割合がやや高く、就職の割合がやや低くなっている。

(2) 望ましい学科やタイプ

（普通科の整備）

「西村山地区の高校教育に関するアンケートの結果」によれば、西村山地区の中学生の約5割が大学・短大等への進学を希望している。また、中学生の約6割が普通科高校への進学を希望している。

このことから、普通科教育における進学指導をより充実させ、目標を高く持ち主体的に学ぶことができる生徒を育成するため、学ぶことの楽しさ、知ることの喜びを実感させることが大切である。

そのために、生徒が将来の自分の姿を思いながら、大学等で学ぶ目的や目標を見つけ、学習の基礎となる知識、思考力・判断力、探究心を身に付けさせるなど、大学での学びを充実させる教育が望まれる。

また、看護、福祉、芸術、外国語等、大学の学部・学科の学びにつながるカリキュラムや教育方法の工夫等、生徒の多様な進学希望を実現する教育も望まれる。

（専門学科の整備）

地域産業の活性化を図る担い手・リーダーの育成を目指し、西村山地区の産業の中心である農業や工業に関する専門教育や、農業・工業・商業の連携を展望した整備が望まれる。その際、本年6月に山形県産業教育審議会より答申された、本県産業教育の改善、充実の方向性と具体的方策を踏まえながら、西村山地区における複合型専門高校の設置や系列において専門教科の学習ができる総合学科の設置が望まれる。

(入学後に科目を選択して学習できる高校の整備)

普通科目と専門科目の、より多くの科目の中から、選択して学ぶことができる総合学科の設置が望まれる。

また、普通科、専門学科ともに高校入学後に、生徒が自分の適性や興味・関心を理解し、進路希望の実現のために科目選択ができるよう、専門学科における科目選択幅の拡大やコース制の導入、普通科における選択科目群（フィールド※）の設定等、特色あるカリキュラムの編成が考えられる。

※ 普通科における選択科目群（フィールド）

一定程度のまとまりのある分野の「選択科目群（フィールド）」を設定して、生徒が自分の進路希望や興味・関心に応じて、フィールドを選択して学習できるシステム

<フィールドの例>

- ・医療看護フィールド
- ・美術デザインフィールド
- ・国際教養フィールド
- ・自然科学フィールド
- ・人文社会フィールド

(3) 少子化による中学校卒業者の減少

県教育委員会によると、平成16年に1,123名いた西村山地区の中学校卒業者は、平成26年には815名になると見込まれ、平成16年からの10年間で308名が減少すると予想されている。また、平成26年以降も中学校卒業者の減少は続き、さらに5年後の平成31年には87名減少し、728名になると予想されている。

こうした中学校卒業者の減少や西村山地区の中学校卒業者の約半数が他地区の高校へ進学している状況を踏まえ、「県立高校教育改革実施計画」においては、現在の西村山地区の4高校で16学級ある入学定員を13学級程度にする必要があるとしている。

(4) 望ましい高校の配置

中学校卒業業者数の減少への対応のみならず、社会の変化や生徒の多様化に対応した教育を実現し、西村山地区の将来にわたる高校教育の質的な向上と学校の活力の保持を図ることが望まれる。

一方、高校の配置を考えるにあたっては、生徒の通学事情等、地域の実情への配慮や、生徒の安全・安心の確保の観点から、老朽化している校舎の施設設備の整備も必要である。

学校が小規模化する中で教育環境を整備し、地元の高校への期待にこたえるため、学校間で連携・交流する「キャンパス制※」を導入し、教育環境の整備と地域振興の両立を目指した高校の配置が考えられる。

また、地元市町村の理解と協力により高校のより一層の教育環境の整備を期待したい。

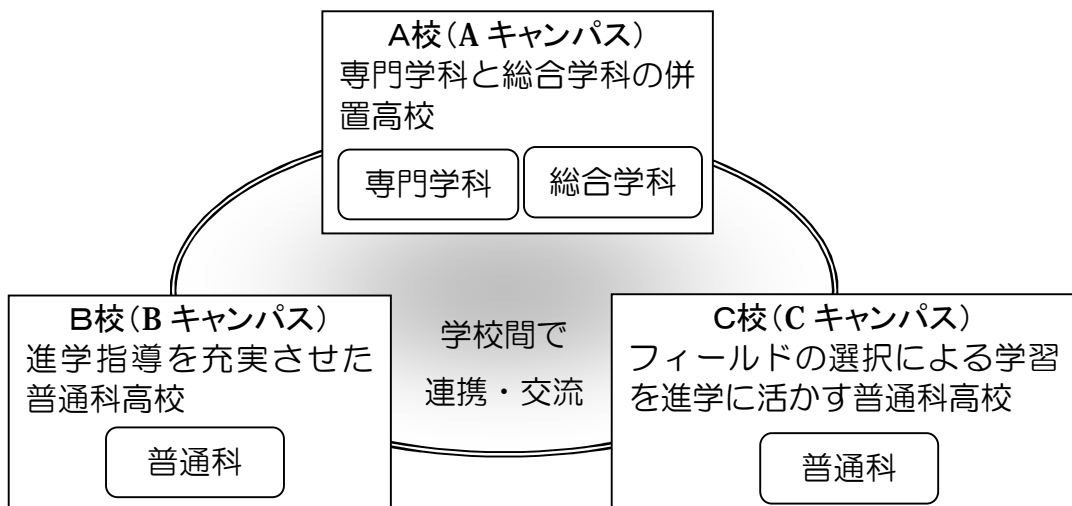
以上のことを踏まえ、望ましい高校の配置として2つの案を併記して提案したい。

キャンパス制による再編案 13学級程度（各校3～5学級）

専門学科と総合学科の併置高校（A校）、進学指導をより充実させた普通科高校（B校）、フィールドの選択による学習を進学に活かす普通科高校（C校）が考えられる。

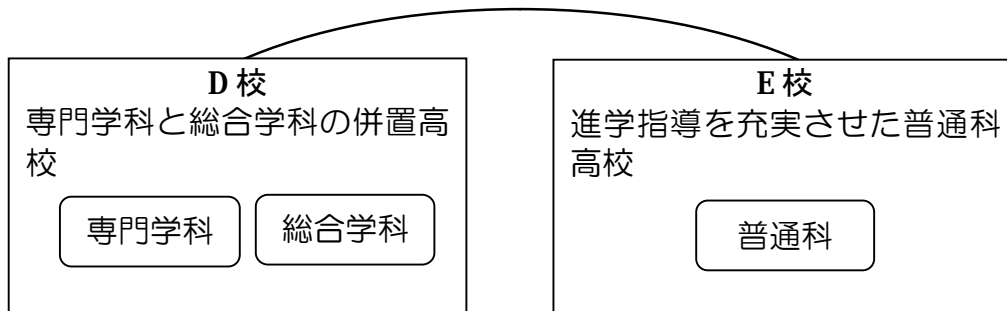
A校（Aキャンパス）、B校（Bキャンパス）、C校（Cキャンパス）の3校間で連携・交流し、教育環境の整備を目指す。

<3校による大学のようなキャンパス制>



2校への再編案 13学級程度（各校5～8学級）

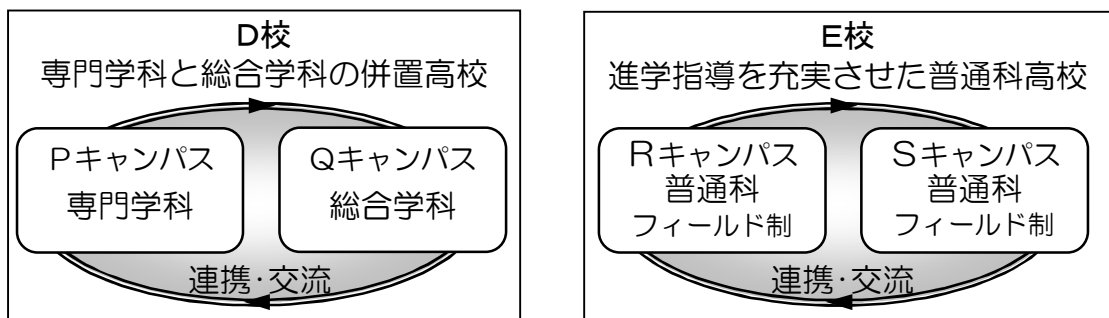
ア 専門学科と総合学科の併置高校（D校）、進学指導をより充実させた普通科高校（E校）が考えられる。



D校とE校間の連携・交流も考えられる

イ 2校をさらに、特色ごとに2つのキャンパスに分け、キャンパス間で連携・交流し、教育環境の整備を目指すことも考えられる。

<2校であるが特色ごとに校舎が分かれるキャンパス制>



※ キャンパス制

複数の高校（キャンパス）間で連携・交流することにより、生徒の学習や特別活動等に関する教育環境を整備する仕組み。

離れたキャンパスで、必要に応じ教員が出張授業を行ったり、合同で部活動や社会参加活動を実施すること等が考えられる。

(5) その他

当委員会のまとめを踏まえた今後の西村山地区の高校再編整備において、以下のことについて考慮を望む意見が出された。

- 整備する専門学科高校に、現在の3年間の本科に加え、「2年間の高度な教育課程」を接続して、5年制化することについて。
- 高校入学後、在籍する学科の変更を可能とする「転科制度」の導入について。
- 現在、小学校、中学校に導入されている「教育山形『さんさん』プラン」を高校にも導入することについて。
- 「キャンパス制」を具体化するに当たり、それぞれの校舎の特色を活かせる連携・交流体制づくりについて。
- 将来、さらなる中学校卒業生数の減少に対応する場合は、「中高一貫教育の導入」等を含め、本地区の高校再編整備を検討することについて。

◆◆ 資 料 ◆◆

資料 篇 目 次

1	検討依頼	15
2	設置要綱	16
3	検討委員名簿	17
4	西村山地区の高校教育に関するアンケート結果の概要	18
5	地域関係者からの意見聴取結果の概要	22
6	「中間まとめ」に関する地域説明会の概要	25

平成20年11月28日

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会

委 員 長 鈴 木 漠 殿

山形県教育委員会

教育長 山 口

常 夫

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討について（依頼）

県教育委員会では、平成17年度を初年度とする「第5次山形県教育振興計画」の実施に当たり、県立高校の教育改革等に関して取り組むべき具体的な内容として、「県立高校教育改革実施計画」を策定しております。この中で、検討課題として提示した西村山地区の高校の再編整備につきましては、社会の変化や生徒の多様化に対応し、一人ひとりの個性を活かしながら、活力ある教育活動を展開できるような、これまで以上に魅力的な学校づくりが求められていると考えております。

そのために、地域の実情を踏まえ、新しい時代を切り拓く西村山地区の高校教育の在り方について、下記の事項について検討くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 どのような人材の育成が望ましいか
- 2 どのような教育内容や活動が望ましいか
- 3 どのような再編整備が望ましいか

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 西村山地区における高校教育の将来の在り方について、意見を求め、教育の条件整備に資するため、「西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(職務)

第2条 検討委員会は、山形県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が検討を依頼する事項について調査・検討し、教育長に報告する。

(組織)

第3条 検討委員会は、別紙名簿の委員で組織する。

2 委員は、教育長が委嘱する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から報告書が提出される日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は、検討委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会は、教育長が招集する。

2 検討委員会は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 委員が会議を欠席する場合は、委員長の判断により代理出席を認めることができる。

(意見の聴取)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、山形県教育庁高校教育課高校改革推進室において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関して必要な事項は、教育長が別に定める。

(附則)

1 この要綱は、平成20年11月28日から施行する。

西村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 委員

平成20年11月28日から

(五十音順、敬称略)

氏 名	役 職 名	備 考
いざわ じゅういち 井澤 壽一	朝日町りんごアドバイザー	
きくち すずむ 菊池 進	寒河江市立陵南中学校長	平成21年3月まで
えんどう やすお 遠藤 康男	朝日町立朝日中学校長	平成21年4月から
こだま やすこ 児玉 康子	河北町立谷地西部小学校長	
ごとう よしひで 後藤 芳英	後藤電子株式会社 代表取締役社長	
さとう こうきち 佐藤 幸吉	西川町商工会事務局長	
さ さ き たかゆき 佐々木 孝之	村山総合支庁地域振興監 (西村山担当)	平成21年3月まで
すずき とおる 鈴木 徹	村山総合支庁地域振興監 (西村山担当)	平成21年4月から
すずき ひろし 鈴木 漠	山形大学地域教育文化学部教授	委員長
たけだ うたこ 武田 詩子	寒河江市立図書館長	
つのだ ゆういち 角田 裕一	株式会社角田商店 代表取締役社長	副委員長
ぬのかわ はじめ 布川 元	山形県立山形南高等学校長	
まえた なぎさ 前田 なぎさ	西村山PTA連合会母親委員会委員長	
わかつき たかし 若月 孝	株式会社若月印刷 代表取締役社長	
わだ たもん 和田 多聞	和田酒造合資会社 社長	

1 調査対象

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) 西村山地区の中学2年生全員 | 約 841 名 |
| (2) 西村山地区の高校1年生全員 | 約 545 名 |
| (3) 中学1年生から3年生の保護者（抽出） | 約 354 名 |
| (4) 小学1年生から6年生の保護者（抽出） | 約 244 名 |

2 調査期間 平成21年2月9日から2月20日まで

3 調査結果（抜粋）

(1) 高校卒業後の進路希望

中学2年生		
1	大学進学	35.7%
2	高校まで	32.8%
3	専門学校進学	19.0%
4	短期大学進学	10.8%

高校1年生		
1	大学進学	50.0%
2	高校まで	25.4%
3	専門学校進学	16.0%
4	短期大学進学	7.4%

中学校の保護者		
1	大学進学	48.2%
2	高校まで	23.2%
3	専門学校進学	17.8%
4	短期大学進学	6.6%

小学校の保護者		
1	大学進学	46.0%
2	高校まで	27.8%
3	専門学校進学	15.8%
4	短期大学進学	5.4%

(2) 進学したい（させたい）高校の学科

中学2年生		
1	普通科	62.2%
2	工業科	9.8%
3	体育科	4.4%
4	福祉科	4.2%
5	商業科	2.9%

中学校の保護者		
1	普通科	61.8%
2	工業科	10.0%
3	総合学科	5.4%
4	情報科	5.0%
5	商業科	4.6%

小学校の保護者		
1	普通科	47.6%
2	工業科	9.8%
3	総合学科	7.3%
4	情報科	5.7%
5	看護科	5.7%

(3) 進学高校決定の際に重視する（重視した）事項（複数選択）

中学2年生		
1	能力や適性	60.0%
2	学びたい教科・科目	31.3%
3	部活動状況	30.4%
4	通学時間・距離	29.2%
5	学費等	22.2%

高校1年生		
1	能力や適性	57.0%
2	通学時間・距離	36.8%
3	進学状況	36.6%
4	学費等	18.4%
5	部活動状況	16.0%

中学校の保護者		
1	能力や適性	83.8%
2	学びたい教科・科目	47.3%
3	通学時間・距離	30.3%
4	学費等	28.2%
5	進学状況	22.8%

小学校の保護者		
1	能力や適性	84.5%
2	学びたい教科・科目	57.4%
3	通学時間・距離	31.2%
4	学費等	30.0%
5	資格取得状況	23.7%

(4) 高校生活で身につけたり伸ばしたりしたいこと（複数選択）

中学2年生		
1	知識や技能の基礎・基本	69.8%
2	基本的な生活習慣や社会性	22.6%
3	主体的な意欲や態度	20.4%
4	コミュニケーション能力	20.0%

高校1年生		
1	知識や技能の基礎・基本	73.2%
2	基本的な生活習慣や社会性	22.6%
3	コミュニケーション能力	20.2%
4	主体的な意欲や態度	19.7%

中学校の保護者		
1	知識や技能の基礎・基本	54.4%
2	主体的な意欲や態度	51.0%
3	人間性豊かな感性など	30.7%
4	基本的な生活習慣や社会性	27.8%

小学校の保護者		
1	知識や技能の基礎・基本	52.1%
2	主体的な意欲や態度	45.1%
3	基本的な生活習慣や社会性	32.5%
4	人間性豊かな感性など	25.9%

(5) 特色あるタイプの学校への希望（複数選択）

中学2年生		
1	総合学科	59.3%
2	中高一貫教育校	26.8%
3	総合選択制	25.4%
4	新しいタイプの定時制高校	24.9%

高校1年生		
1	総合学科	55.5%
2	中高一貫教育校	30.1%
3	総合選択制	29.4%
4	新しいタイプの定時制高校	24.3%

中学校の保護者		
1	総合学科	73.4%
2	総合選択制	40.7%
3	中高一貫教育校	16.6%
4	新しいタイプの定時制高校	3.7%

小学校の保護者		
1	総合学科	65.3%
2	総合選択制	43.2%
3	中高一貫教育校	24.3%
4	新しいタイプの定時制高校	4.1%

(6) 将来就職したら住みたい（住んで欲しい）地域

中学2年生		
1	西村山地区	34.3%
2	関東地方	16.6%
3	東北地方	14.9%
4	わからない	14.4%
5	県内どこでも	12.9%

高校1年生		
1	西村山地区	24.3%
2	東北地方	18.4%
3	関東地方	18.0%
4	わからない	15.1%
5	県内どこでも	10.7%

中学校の保護者		
1	西村山地区	44.8%
2	県内どこでも	19.1%
3	わからない	10.0%
4	その他	8.3%
5	東南村山地区	7.1%

小学校の保護者		
1	西村山地区	50.2%
2	わからない	12.6%
3	県内どこでも	11.7%
4	その他	11.0%
5	東北地方	5.7%

(7) 進学希望高校の所在地

中学2年生		
1	西村山地区	53.3%
2	西村山地区以外	22.9%
3	決まっていない	21.8%

中学校の保護者		
1	西村山地区	49.0%
2	決まっていない	32.0%
3	西村山地区以外	15.8%

小学校の保護者		
1	決まっていない	48.6%
2	西村山地区	36.3%
3	西村山地区以外	10.7%

(8)西村山地区の県立高校の在り方についての主な意見や要望

※（中２）：中学校２年生、（高１）：高校１年生、（中保）：中学校保護者、（小保）：小学校保護者

○ 再編整備に関する意見

- （中２・高１）現在の学校、学科構成を継続してほしい。
- （中２）入学定員を減らさないで欲しい。
- （高１）進学指導を充実させた高校を増やして欲しい。
- （小保）地元の高校の存続を希望します。
- （小保）統合して新しい高校をつくることに基本的に賛成です。
- （中保）通学の便に配慮した設置を望みます。

○ 学科等に対する意見

- （中２）現在ある学科だけでなく新しい学科の設置をして欲しい。
- （中２）できるだけ多くの分野のことを学べる学校がよい。
- （高１）総合選択制高校があってもよいと思う。
- （高１）学科を増やすことで自分の個性を伸ばせる学校づくりをして欲しい。
- （高１）語学系の学科を設置して欲しい。
- （小保）高校入学後、進路希望により科目を選択して学べる学校を設置して欲しい。
- （小保）普通科高校、専門学科高校、総合学科高校を整備して欲しい。
- （中保）普通科だけではなく、福祉科、商業科、食物科、看護科も整備して欲しい。

○ 教育内容に関する意見

- （中２）就職や進学に強い高校にしてもらえるとうれしい。
- （中２）地域に密着した活動を行い、西村山地区を活気づけてもらいたい。
- （中２）部活動が活発な学校にして欲しい。
- （高１）他校との交流の場があればよいと思う。
- （小保）生徒の可能性を十分に引き出す学校づくりをして欲しい。
- （中保）高校では人間関係を広げたり、視野を広げる経験により人間的に成長して欲しい。

○ その他の意見

- （中２）高校の施設や設備を新しくして欲しい。
- （中２）交通の便利さを重視して欲しい。
- （高１）教員数の増加や、施設設備など教育にかけるお金を増やして欲しい
- （小保）授業料、通学費など経済的負担が少なく高校へ通える体制づくりを望みます。
- （中保）スクールバスなど、子どもが自分で通学できるように考えて欲しい。

地域関係者からの意見聴取の概要

1 どのような人材の育成が望ましいか

- これからの社会を担う人たちに望まれる資質や能力として、「集える力」と「伝え合う力」が考えられる。この二つのことを目指して、一人ひとりが互いに高めあうことが大切だ。
- 不易と流行をよく見極め、流行に流され不易なことを切り捨てることがないようにしなければならない。西村山地区の産業のことを考えると、生活を支える場として工業を中心とするものづくりの存在が大きい。
- まちづくりの視点から地域を元気にする要素として二つ考えられる。一つ目は、産業の高度な技術を身につけることができる場をつくること。二つ目は、小・中学生、保護者の注目を東南村山地区から西村山地区に向けさせることだ。そのためには、大学に進学できる力を育成できる高校整備と小・中学生、保護者の前に高校生の姿を見せ、地域の中で「まぶしい学校」として輝いている高校整備が必要だ。
- 今の子どもの気になることは、無目的なところである。アンケート結果においても大学進学が多いので、何のために大学に進学するのかよく考えさせることが大切だ。
- 生徒は、核家族化や単純な人間関係の中で生活しており、社会全体の交流や人間関係が薄くなり、他人への無関心さを心配することがある。社会で生きていく上で必要な規範意識を身につけるとともに、協調性やコミュニケーション能力を育成する必要がある。
- 世の中の変化が早いので、変化に対応する力と継続して努力できる持続力が必要だと考えている。情報があふれているので、自分で情報を活用して、生かすことができる力も必要だ。
- 社会性やコミュニケーション能力の育成が大切だ。自分の意見を持って、表現できる能力は、仲間づくりをする際や、仲間に自分がしたいことを伝える時に必要であり、自分のよさを伝えることにもつながる。そうした能力は、人と人との関わりの中で育まれていくものであり、学校での生徒会活動や部活動等、学校外でのボランティア等で身につけて欲しいと考えている。
- 心の温かさや豊かな人格の育成とともに、自ら考え、判断して、行動できる等、生徒がひとり立ちできる力を育成することが大切だ。
- ものづくりに直接関わる技術者を大切にする社会であることが重要だ。西村山地区においては、農業や工業、商業に関する人材育成が大切である。また、理系の人材を大切にすることも重要だ。

2 どのような教育内容や活動が望ましいか

- 中学生が高校を訪ね高校の教育内容や活動に憧れを持つような場面や場所を作る必要がある。高校の年代に多様な活動体験を積みせることは大切なことだ。自分を表現できる活動の場があり、自分を語れる学校が望ましい。
- 高校生のボランティア団体は、学校の枠を超えて活動している。中学校時代の友人関係で誘い合って活動している。地域の活力を考えると大切な活動で、地域への愛着も育まれている。高校でも、地域ボランティアのリーダー育成が望まれる。
- 普通科においても特色ある高校づくりが大切だ。進学校でも他の進学校とは違う特長ある学校づくりを期待している。教科指導に秀でた先生や専門に徹した「名物先生」がいる等、教員との出会いを中学生が魅力に感じる高校づくりが大切だ。こうした特色づくりは、山形市内の進学校とは違う魅力になり、目的を持って大学進学を目指す生徒の育成にもつながると考えている。
- 中学生が高校を選択する際、わかりやすい高校の特色を示して欲しい。あの高校に入学すれば、英語ができるようになる、芸術の能力を伸ばすことができる等、目的ある高校生活をイメージできるような高校づくりを期待している。
- 将来の仕事や生活を考える中で、地域で生活することのよさを見つけ、地域の中でやりたい仕事を見つけられる環境があればよいと考えている。
- 高校に合格することが目標になりがちであるが、高校に入学してから目標を見つけ努力したいと考える生徒もいるはずであり、そうした生徒にも対応できる高校づくりが望ましい。また、目標を見つけることができるような支援も学校で必要だ。
- ふるさとでの社会貢献を考えられる基盤をつくる教育が大切だ。目的や目標が不明確のまま、大学進学する人が増えている印象がある。目的や目標を持って進学させることが必要だ。
- 若い時から、優れた技術を修得して、それを伸ばしていくことが大切だと考えている。社会全体として、そうした人材育成ができる地域であって欲しいと考えているので、高校の専門学科は大切である。
- 高校進学目的や目標を啓発しないと、高校が育成したい能力と生徒や保護者の意識にギャップが生じてしまう。魅力的な高校づくりには、明確な目指す学校像が必要だ。
- 生徒自らが得意分野や、興味関心のある分野を見つけられるようにして、生徒が積極的に学べる教育内容や活動が望ましい。
- 地域の伝統文化の伝承も学校が担っている役割であり、生徒が地域社会のことをよく理解し、地域に夢を持てるような取組みをして欲しい。

3 どのような再編整備が望ましいか

- 高校整備の視点として二つ考えられる。一つ目は、将来の夢を描き続けることができる基盤をつくる役割が、普通科高校にあり、工業高校には、ものづくりを担っていける資質、能力、態度を育成する役割がある。

二つ目は、多様な体験活動を重視した自己表現の場としての学校がある。それは、地域の人々と、共に集いあい、伝え合い、お互いに高めあっていく場としての学校である。
- 第5次教育振興計画を基本に再編整備計画を進めるのが望ましく、地元から高校をなくしてもらっては困るという議論で検討委員会が終わらないように、将来のビジョンを見通して議論を深めて欲しい。
- 朝日町、西川町は通学費用がかかるので、通学の利便性を考えても西村山地区の魅力ある学校づくりは大切だ。
- 不登校傾向にある生徒や、社会性を身につけるのに時間がかかる生徒の進学先の整備が必要だ。
- ある程度の規模のまとまりで、複数の学科がある高校は生徒の魅力になるのではない。総合学科は、生徒・保護者にあまり理解されておらず、高校卒業後の進路先に不安感を持つようだ。3年間の学習内容、学校生活、目指す進路先をわかりやすく伝えることが大切であり、高校入学後に学習の方向を選択できることが魅力につながると考えられる。
- 時代の変化を見極めた学科構成が大切で、生徒同士が切磋琢磨する中で強く鍛えられる学校が必要だと考えている。
- 工業や農業、商業等の専門学科は必要であり、小規模校でも地域と学校が一体感を持つ学校経営が大切だと考えている。
- 学校で生徒が何かに目覚めることができるような環境づくりが大切だ。可能性を実感する機会を多く与え、自分の将来を決めることができる環境がある学校は、魅力があると考えている。
- 中学生は、高校で学ぶ目的や目標を高校受験前に持つことが難しくなっている。一方で、保護者は、高校で資格取得や進路先等高校卒業後の確実な見通しを求めており、高校の魅力の出し方が大切だ。
- 学校選択をする時に通学費を含めた学費や通学事情も大きな要因になる。家庭環境で高校進学を心配しなくてはいけない生徒がいることも現実にあるので、そうした生徒への配慮も十分考えて欲しい。
- 高校入学後に、商業や工業、農業等各分野を選択して学べる学校がよい。例えば、農業高校に入学したものの商業の分野を学びたいと考える生徒もいるので、生徒が高校入学後に学習したい分野の変更や、他学科の科目も学べるような学校がよいと考える。

「中間まとめ」に関する地域説明会の概要

1 開催状況

	日時	場所	参加人数
寒河江市会場	10月19日(月)19:00～20:30	ハートフルセンター	28名
河北町会場	10月21日(水)19:00～21:00	サハトベに花	123名
西川町会場	10月23日(金)19:00～20:30	西川交流センター「あいべ」	5名
大江町会場	10月25日(日)10:00～11:40	大江町中央公民館	42名
朝日町会場	10月29日(木)19:00～20:15	エコミュージアムコアセンター	55名
		計	253名

2 内 容

- (1) 検討委員会あいさつ
- (2) 説明
 - ① 西村山地区の高校の現状と課題
 - ② 検討経過の概要
 - ③ 中間まとめの概要
- (3) 質疑応答
- (4) その他 参加者アンケートを実施

3 参加者の主な質問・意見

(1) 寒河江市会場

- 「キャンパス制」の実施においては、生徒の移動手段が課題になるのではないかと、地域の産業基盤形成と高校整備との関係についてはどのような検討がなされたのか。
- この「中間まとめ」は、少子化へ対応するための教育ビジョンとしてはよくまとめられているが、「西村山地区の高校教育の在り方」としてまとめるには、4つの高校の5つの校舎がどうなるのかも含めて「中間まとめ」を出してもらわないと、地域住民の注目に応えることにならないのではないかと。
- 提言された教育ビジョンはよく理解できたが、この教育ビジョンを踏まえた具体的な枠組みが公表され、現実のものとなるのはいつになるのか。
- 高校再編整備計画の小・中学校の先生方への周知と共に、高校の先生方が再編整備をどう考えているのかということも重要である。
特に、「キャンパス制」について「離れたキャンパスで、必要に応じ教員が授業等を行

う」と提言されているが、高校の先生方がこのことをどう考えるのか心配である一方で、期待もある。

- 政権が変わり「高校授業料の無償化」の方針が示され、私立高校を取り巻く状況も変化してきた。国会の動向にも十分考慮して、最終報告書の検討や提出をしていただい方がよいのではないか。

(2) 河北町会場

- 地元の高校がなくなると、子どもたちのみならず町民の夢や誇りを奪って、町全体の活力を失わせ、過疎化してしまう可能性があると考えている。子どもたち一人ひとりを大切にした教育として誇れるような再編整備計画を希望する。
- 本県では、全国に先駆けて小学校で1学級を33人以下とする政策を導入し、他県での少人数学級導入にも大きな影響を与え、その政策は評価されている。高校でも1学級を33人以下とする政策を検討していただきたい。
- 西村山地区の生徒の約半数が山形市等の東南村山地区の高校に進学している理由として、西村山地区にはない学科への進学希望や部活動の理由が考えられる。
- 本日も説明のあったビジョンであれば、子どもたちも夢を持って、西村山地区の高校に入学するものと確信している。保護者が心配しているのは、通学がどうなるのかということである。公共交通のバス路線が縮小しているのに、自家用車で送迎している現実がある。
- 検討委員会では「中間まとめ」をたいへんな努力でまとめ上げたという理解している。当初、学校数の削減ありきではないかという疑念が住民の間にあった。キャンパス制も含めた3校案、2校案が提言されているが、これまでの検討委員会の中でも、学校数は減らして欲しくない、今ある学校を残していただきたいという意見も出されていたので、住民の声を十分に取上げていただいて最終報告書をまとめていただきたい。

(3) 西川町会場

- 保護者の間では、どこの高校がなくなり、どこを残そうとしているのか関心が高い。西川町から高校へ通学させるのは、交通事情が悪いので大変である。
- 中学生は、自分の学力に応じて高校を選択しているという現実があるので、西村山地区だけの検討でとどまるとすれば疑問を感じる。
「キャンパス制」は、山形市の高校にも導入するのか。山形市内の高校はそのままとすれば、山形市内の高校へ生徒が流出すると考えられる。
- 工業高校に進学して、地元の国立大学に進学しようと考えても、進学夏期講習があるのか、進学のノウハウがあるのかなどが不安なので、事務局から説明があった連携・交

流は楽しみだ。さらに、進学者向けのコース等を選択できるようにして欲しい。そうすれば、山形市の高校に行かなくてもよくなると思う。

- 通学事情に配慮した学校の整備は、町の行政課題になっている。検討委員会でも、ここまでまとめられたのであるから、具体的な通学事情への配慮についても取りまとめて、意見として県教委に提出して欲しい。
- 志望する生徒は少ないかもしれないが、農業をきちんと教えてもらえる学びの場が必要と考えているので、西村山地区にそうした学校を残して欲しい。

(4) 大江町会場

- 現在の学校を活かしながらの「キャンパス制」や自分が学びたい科目を選択できる高校の整備は、大変夢のある提言であるという印象だ。
- 寒河江工業高校は相当老朽化しており、建物の建て替えについてや西村山地区の専門教育の姿は具体的にどのように考えていくのか。
- 1つのセンター校を軸に3校によるキャンパス制は説得力のある構想であると受け止めているが、教育の質の面から考えると、豊かな自然環境があり、昔からの伝統がある西村山地区の教育実践を大切に考えれば、センター校をおいての4校体制が納得のいくものであると考えている。
- 「キャンパス制」の導入は、教員と生徒の所属学校への帰属意識に変化をもたらすものと考えている。
- 検討委員会が提案した「キャンパス制」が採用されるとすれば、全県的にも最初の例になるので、西村山地区だけが特殊な体制と受け止められないように、他の地域にも広がりを持てるような十分な配慮が必要である。
- 西村山地区の現在の4校体制をできるだけ残したいという考えを基盤として「キャンパス制」をご提言いただいたことはありがたいことであるが、子どもたちの教育にマイナスにならないような体制を十分にとっていただきたい。
- 「キャンパス制」を導入する場合、魅力ある高校づくりを第一に考えていただきたい。例えば、3校であるが、4校舎によるキャンパス制ということについても整理していただきたい。中学校の先生方がどのように理解され、どのような考え方を持っているのか興味がある。

(5) 朝日町会場

- 小・中学校では、「さんさんプラン」で1学級の生徒数を30人程度にしているが、高校においては、1学級の適正な生徒数をどのように考えているのか。もし、高校でも30人程度が適当であると考えれば、1学年100名程度で3学級の学校が考えられる。

- 高校再編整備を進めるにあたっては、次代を担う子どもたちのためによりよい教育を整備するということを基調に進めていただきたい。検討委員会の説明には、そうした姿勢が感じられる。
- 生徒の一人ひとりの学習ニーズをとらえて保障することが大切であり、そのための学習環境づくりが大切である。また、時代の要請に応える教育を保障する学習システムづくりも大切である。
- 「キャンパス制」はよい発想であると感じている。「キャンパス制」においてどの程度の連携・交流が可能なのか、「フィールドの選択による学習」も含めて詳しく聞きたい。
- 中学生も減っている状況をみると、高校が減るのもやむをえないが、その時に高校への通学が課題になる。特に朝日町では、高校への通学手段の確保をどうするのかということが重要である。祖父母が送迎をしている家庭も少なくないが、祖父母がいない家庭は大変である。

4 参加者アンケートの概要

(1) 寒河江市会場

- 再編の検討においては、子どもや保護者のアンケートと検討委員の意見を合わせて、魅力ある学校づくり、他地区からも志願する学校づくりをして欲しい。
- 子どもたちのよりよい教育環境を考えていただき、保護者や子どもたちの不安がないように情報を多く提示してもらいたい。
- キャンパス制導入のメリットは理解できたがデメリットも議論すべきだ。現場の困難が予想され、「中間まとめ」の理念が成り立たなくなるのではないか。
- キャンパス間を移動して指導する教員の移動時間や、その負担感も考慮する必要がある。
- 「学校は地域文化の拠り所」ということを考えると、キャンパスという形でも地元に残ることは喜ばれる。

(2) 河北町会場

- 意見を言うことができなくても、説明を聞いたり、将来のことを考えたりできるのに小中学生の保護者がいなくて残念でした。
- これまでの県内の再編整備は校舎の新築をともなっていたが、西村山地区の地域振興の点からは、既存の校舎を活用するのが良い。
- 孫は、山形市内の高校へ進学し親が苦労しているようなので、山形の方へ目を向けられないような近くにすばらしい学校をつくって欲しい。
- キャンパス制は、教員の移動や各キャンパスの生徒の把握、生徒の移動など課題が多

い。フィールド選択による学習も魅力があるように説明されたが、そのためにも必要な教員数の確保が必要である。

- キャンパス制は、一つの高校の分校化に過ぎない印象がある。
- 3校体制によるキャンパス制を提案されたが、4校体制はできないのか。

(3) 西川町会場

- 新しい考え方が盛り込まれており、社会の変化を感じる。考えられる課題などを今後聞きたい。
- 定員割れが続く郡部の小規模校について、再編一辺倒だった考え方からの転換が図られている印象がある。
- 生徒の通学、就学、選択保障を懸命に考えるとともに、地域の核となる学校のあり方について配慮されようとする姿勢に好感を覚えた。他地区（北村山、西置賜）でも同様の考え方になるのか注視したい。

(4) 大江町会場

- 教育の質を大切に結論を出して欲しい。
- 地域の学校に入学したいと考えるような学校をつかって欲しい。
- 老朽化した校舎への対応も含め、財政上の問題が重い課題になると考えられ、教職員の意見・不安も聞いて進めて欲しい。
- 高校教育が義務教育化している中、募集定員の考え方も変化するべきでないか。学びを希望する者全てに機会を保障するための仕組みを整備して欲しい。
- 子どもたちは都市の方に目を向きやすいので、そのことを念頭に魅力ある学校づくりをお願いしたい。
- キャンパス制であれば小規模校でも存続できる。高校が義務教育化している現状や地域性を考えると学校の存在価値が大きい。
- キャンパス制は、高校入学する子どもたちが選択できる範囲が広がり良いと思うが、姿を消す高校が出た場合、通学環境などを十分配慮して欲しい。
- 「キャンパス制」という地域に学校を残すという方法の提案は、検討委員会の勇気ある提案である。

(5) 朝日町会場

- 保護者や地域の人たちが知りたいのは、地元の高校がこれからどうなるのかという点なので、具体的な方向性を示して欲しかった。
- 教育の機会均等を実現するためには、地元にある学校が一番であるが、児童生徒の減

少により必要な学習を行うのが難しくなっている。

- 総合学科設置の方向性は良いと思う。
- 高校再編は中央に集中する傾向にあり、地域によっては高校に通学する交通手段がなくなり、親がたいへんになっているので、教育格差がでないように配慮をお願いします。
- 西村山地区以外への進学者が多いのは、高校の特色などだけではなく通学の便もあるのではないかと。特に朝日町は、親の送迎が不可欠で現実的問題を抱えている。
- 山形地区に進学しなくても、様々な勉強ができるのであれば素晴らしい、今後が楽しみだ。
- 子どもたちのことを第一に考えて、夢を実現でき、地域を愛することができるような教育をしていただきたい。また、母校愛を持てるような地域に密着した高校を望む。

<お問い合わせ>

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室

〒 990-8570 山形市松波二丁目 8 - 1

TEL 023 (630) 2493 FAX 023 (630) 2774

※ 西村山地区の県立高校の再編に関する情報については、県ホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoi ku/700013>